

## 令和5年度 第2回 福知山市上下水道事業経営審議会

日時：令和5年9月13日（水） 午後1時30分から午後4時

場所：福知山市上下水道部庁舎 3階 301会議室

〔委員〕 (敬称略)	齋藤達弘	会長・福知山公立大学 教授
	越後信哉	副会長・京都大学大学院地球環境学堂 教授
	松本清香	公募委員
	中井政夫	公募委員
	大内 淳	福知山商工会議所 中小企業相談所 所長
	衣川浩行	福知山市商工会 事務局長
	嵯峨根正和	一般社団法人長田野工業センター 参与
	谷垣 均	福知山市自治会長運営委員連絡協議会 駅前町自治会長
	森田雅子	福知山市連合婦人会 会長
	大路裕子	京都府建設交通部公営企画課 課長
長谷川広樹	京都府建設交通部水環境対策課 課長	
〔上下水道部〕	中村直樹	福知山市上下水道事業管理者職務代理者（上下水道部長）
	牧 正博	上下水道部次長
	間島哲哉	経営総務課長
	井上義信	上下水道部次長兼水道課長
	真下昌悟	水道課課長補佐兼計画管理係長
	山田淳悟	水道課課長補佐兼工務係長
	山本英典	上下水道部次長兼下水道課長
河田淳也	下水道課計画係長	
〔事務局〕	志賀 亘	経営総務課課長補佐兼経理係長
	櫻尾篤士	経営総務課経理係主査
	西村さつき	経営総務課経理係主査
	杉山貴哉	経営総務課経理係主事
	山崎志帆	経営総務課経理係主査

○開会及び開会あいさつ

齋藤会長 福知山市上下水道事業経営審議会規程第5条第2項の規定に従いまして、委員の皆様の過半数のご出席を賜っておりますので、会が成立しております。ただいまから令和5年度第2回福知山市上下水道事業経営審議会を開催させていただきます。

それでは、次第に沿って議題を進めていきたいと思っております。一番目の議題は、第二次福知山市上水道事業等包括的民間委託についてです。令和6年度より新たに開始される第二次包括的民間委託について報告をお願いいたします。

○第二次福知山市上水道事業等包括的民間委託について

～牧次長 報告～

齋藤会長 ありがとうございます。来年度4月からの第二次包括的民間委託の契約についてご説明いただきました。委員の皆様からご意見やご質問等ありましたら挙手でお願いいたします。

衣川委員 プロポーザル方式はよく聞く言葉ですが、詳細を教えてくださいと大変嬉しいです。

牧次長 地方自治法上の契約、市でも国でもそうですが、一般競争入札をしなければなりません。いわゆる価格競争というものです。この例外として指名競争入札や随意契約があります。

プロポーザル方式というのは、その随意契約の手法の一つで、提案書により、どの提案が良かったのかというのを、選定委員が点数を付け、100点満点のうち50点とか60点があれば、60点の方が高いので、優先交渉権を設けて、そこと契約に向けて話をして、価格交渉や業務委託の内容を決めて契約をしていくというものです。

衣川委員 優先交渉権があるということですが、交渉がまとまらないことがあるということでしょうか。

牧次長 交渉がまとまらなければ次の人に優先交渉権がいきますが、まず、そういった例はないと思っております。

齋藤会長 他にありませんでしょうか。

第二次から委託する業務が増えて、金額が25億から39億に増えるということで、この金額が増える要因はどんなことですか。

牧次長 金額が増える要因については、予防保全の考え方で、漏水を少なくしていった有収率を向上させるという予防保全修繕の部分が約11～12億追加となっています。

齋藤会長 それがうまくいった時の費用の削減が1億5千万から2億ぐらいということですね。

牧次長 それぐらいの削減が予想されるということです。

齋藤会長 分かりました。他にございませんでしょうか。

では、この第二次上水道事業等包括的民間委託についてはこれで議論を終わらせていただきます。続きまして、2番目の水道事業ビジョンの中間検証についてです。水道事業ビジョンは令和元年度からの策定で、5年間が経過しております。本年度が中間検証の年度になっておりますので、事業の進捗状況や今後の見通しについて報告をお願い致します。

#### ～真下課長補佐 報告～

齋藤会長 ありがとうございます。概ね大きな問題はないと。評価でC評価のいくつかの項目については、第二次包括的民間委託のところで重点的に取り組もうということです。委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

谷垣委員 5ページの強靱化のところ⑤他の事業体との応援体制のところ、丹波市と継続的な協議を行っているが、効果については検討中であり、具体的な方向性が決定していないと要因としてあげられております。対策の方では、可能なもので効果のあるものから応援体制の検討・協議を加速させるとありますが、効果について検討中であるものを、どう加速させられるのか、要因のところ整理がっていないのではないかなと感じていますが、いかがでしょうか。

真下補佐 丹波市との協議を現在行っているところではございますが、情報共有やいろんな課題について協議をする中で進めているところで、具体的な方向が決まっていないうところが要因となっておりまして、具体的な方策を今後検討していきながら、加速させていきたいと考えているところです。

齋藤会長 Cの評価になっておりますが、目標は検討をするかどうかですので、実は検討しているということは目標を達成していることとなります。ただ中身が順調にはいってないということです。検討はしているけれど、中身については進捗していないというご説明だったと思います。目標としての検討は着手しているという理解ですが、中身についてまで進めるという目標になっていないので、試験的に検討していると。それは十分目標が達成されていると理解しています。C評価にされているのは、厳しく評価をされているのではないかと思います。通常はB評価でも良いのではないかと思います。中身を詰めるところまでは、実は目標には入っていないということではないでしょうか。

真下補佐 内容につきましては、丹波市と福知山市の接するところ、例えば、三和町など接しているところがあります。そういったところで、情報共有しながら、可能なものがあるのかどうかというところをまず検討する中で、具体的な方策までは至っていないものの、福知山市にとって有益なものを実現させていこうと検討を進めていきたいということです。

中井委員 今丹波市のお話が出てきていますが、福知山市と丹波市との間の協議で進んでいくのでしょうか。京都府と兵庫県という、都道府県の問題が出てくるのではないですか。現実的に丹波市の水が不足している場合、丹波篠山市からという話がありますが、福知山市から行った方が要件的にスムーズに行くと思うのですが、都道府県の壁があるということではないでしょうか。

井上次長 この話は、発端は丹波市の方からご相談があり、お互い兵庫県側からも京都府側からも、国を挙げて広域的な連携を進めておられる中で上がってきた話であります。兵庫県側、京都府側の方、丹波市の方も一緒に会議に入って検討をさせていただいておりました。具体

的には、隣接しておりますので、お互いの境を跨いで管を繋いで、一つは緊急的な場合にそれを利用してお互いに応援の給水ができるようにする。もう一つは、半永久的に水を送って水を供給することができないかといったところで検討を進めているのですが、具体的な話になりますと、特にどちら側かから水を供給することになると、事業認可ということになりますので、京都府や最終的には国への話を進めていかななくてはならない話になります。今のところは、まだそこまで具体化できていないというところです。

大路委員 京都府において水道行政を所管している立場から、少し補足をさせていただきます。当方もお話をお伺いしておりますし、兵庫県においては『兵庫県水道広域化プラン』にその旨記載されていることも認識しております。今後、具体的なお話が進むようであれば、我々も一緒に協議に入らせさせていただきたいと思っております。

続いて、一点質問です。6ページの有収水量の課題に、「適正な施設整備計画の早期構築が必要」と書かれていますが、後の議題の経営戦略にも関連しますので、現在の施設整備計画があればその期間を、見直しや構築をされるのであればその予定を教えてください。

真下補佐 令和元年度にビジョンと整合を図りながら、施設更新計画の実施をしております。計画期間は令和2年から40年間で計画をしております。直近の10年につきましては、詳細な計画をしています。また、今後水道事業ビジョンの改定もございまして、社会情勢の状況も見ながら、変更等をしていくことを考えているところです。

大路委員 令和10年度に予定されているビジョンの改定に合わせて、整備計画を見直されるという理解でよろしいでしょうか。

真下補佐 そうですね。おおよそ直近の10年の計画をたてているところですので、その後の計画の具体的なところについても検討していく必要があるのではないかと考えています。

齋藤会長 その他にございますか。

越後副会長 5ページの省エネルギーのところですが、今日の包括委託の話に漏水率の低減の話がありましたが、漏水率はエネルギー消費量にも

関連しており、送り出す水が減るので、動力費や関連する機械を動かすエネルギーが減るわけですね。ですので、それを入れたら良いのかなと思います。どれくらいのパーセンテージになるか分かりませんが、よくこのお話では太陽光パネルの話が出てくるのですが、それよりは大きい話で、無駄な水を作らなくて良く、送らなくて良いということはエネルギーの観点からすごく大事だと思います。

齋藤会長 先ほどの包括委託のところではどれくらい費用が節約できるのかという費用節約の分を、もう少し広く捉えることが大切ではないかということだと思います。直接的な水のことだけではなくて、少し広く捉えれば、もう少し費用の削減効果が大きくなるのではないかというお話でした。

あと他にございませんでしょうか。

では、水道事業ビジョンの中間検証についてはこれで終わらせていただきたいと思います。

続きまして、3番目の報告事項、下水道ビジョンの中間検証についてです。下水道ビジョンは令和2年度に策定されております。本来は令和6年度が中間検証の年度となりますが、この機会に全て合わせるということで、1年前倒しにして下水道ビジョンの中間検証を行いたいと考えております。では、事務局の方からお願いします。

#### ～河田係長 報告～

齋藤会長 委員の皆様からご意見ご質問がありましたら、お願いいたします。

長谷川委員 2ページ目のところで、⑥の不明水対策のところですが、前期目標でテレビカメラ調査や発生源対策が書いてあって、それに対して進捗状況はテレビカメラ調査や音波調査、送煙調査で対策をされているように見えるのですが、C評価されている理由は調査が完了していないからなのか、調査した結果発生源の原因が特定できていないのか、C評価をされている理由を教えてください。

河田係長 7ページに要因を書かせていただいておりますが、クラックや破損、継ぎ手の緩みなど多岐に渡り、種類が多すぎて特定が難しいことが原因になっており、今後は発生源の絞り込みを行い、集中的に不明水の発見の対策を進めていきたいと考えております。

山本次長 質問の内容は大変難しく、不明水は事業認可上20%と言われていますが、福知山市ではもっとたくさん豪雨の時には入っている状況です。現在、カメラ調査や音響調査等、絞り込みを行っており、実際ここを修繕しようという所に至ったのが、現在、1地区となっています。

それ以外にも何地区か絞り込みを行うこととしています。

下水道課で持っています本管の方は下水道課で修繕できますが、宅内排水設備になると、個人宅へ相談に伺い、修繕依頼をする必要があります。納得してもらい、自ら修繕していただく必要があります。

去年度、実際に不明水の対策工事の実施が少しできました。今年度も発生源が発見できているので、確実なところをきっちり修繕していくことを進めています。公共や農集と沢山の管渠がありますが、維持管理の点検や豪雨の降った時に課員で全て回っています。その時に発見した管渠については、その都度、小修繕をやっけていこうと、今実施しているところです。

齋藤会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

越後副会長 持続の⑪で民間委託のお話を進められているということですが、上水の方は包括的民間委託の話がありましたが、下水の方が民間の力を活用することが進んでいるように思うのですが、福知山市ではどういう状況かを教えてください。

山本次長 ご質問は6ページの⑪のPPP/PFIについてでしょうか。

越後副会長 そうですが、今までどんな感じの民間委託を利用されていて、水道と下水道の違いなどあれば。

山本次長 現在、福知山市の下水では、農業集落排水がたくさんあります。また、公共下水道が1箇所、特定環境保全公共下水道が2箇所あるところで、区域に分けて各維持管理業者に維持管理を現在、お世話になっています。

現在は、委託業者に管路の更新をお願いするところまでは入っていません。福知山終末処理場がとても古いということがあり、先ほど汚泥有効利用という言葉があったのですが、焼却施設が平成11年から供用開始しており、老朽化のため、今回、脱炭素事業を取り

入れ、汚泥有効利用施設を築造するというこで、消化ガスも利用しながらという事業をやっております。

それが令和2年から令和7年度までの5か年の事業で、これまでですと維持管理業者にお世話になっているものを、下水道ではDB+O(デザイン、ビルド+オペレーション)についてもお世話になっていく工事を今実施しております。令和7年度に工事完成したのち、SPC会社と福知山市が契約をし、維持管理を行っていく予定としており、その分についてはPPP/PFIを活用し、環境にも配慮した中身になっています。

越後副会長 ありがとうございます。よく分かりました。

齋藤会長 先ほどの水道のところでは対策の中に第二次包括委託に委ねるといふ文言がありました。今回対策の中に、それにならったようなものがあると、将来こうなるのかなということが見えるのではないかと思ふのですが、今お話しいただいたので十分対策は考えていらっしゃるのですが、それは第二次包括委託との関係でいふとどういう風になるのでしょうか。含まれているか、別枠になっているのかどうでしょうか。

山本次長 下水道につきましては、焼却から汚泥有効利用施設に変わります。汚泥有効利用施設については、業者が工事をして令和7年度には完成します。その総合評価方式によりデザイン、ビルド、そして、維持管理も含めた基本契約をしておりますので、令和8年度から、その方と20年契約を結ぶ予定にしています。水道で言っている二次とは別で行っています。現状と課題で書いていますのは、新聞でもW-PPPという言葉も出てきますが、そこまでは今至っていないというところでは。

齋藤会長 ここに書かれていないけれども計画があるということで、先ほど二次の包括の中に入っていないけれども、別途あるという理解でよろしいでしょうか。

山本次長 実際のところは福知山市と日本下水道事業団とその業者とで協定を結んでおりまして、オペレーションの部分についても基本的には合意し、令和8年度からその方々と維持管理契約を結ぶ予定として



います。

齋藤会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。以上で2つのビジョンについての中間検証を終わります。2つ合わせての結論ですが、大きな変更の必要はないということで、向こう5年間、後期もこのビジョンに従って進めていくこととなります。

次は4番目の議題に移りたいと思います。経営戦略の改定についてです。経営戦略は、今回は中間見直しではなく、5年ごとに向こう10年間の計画をたてるという5年目にあたりますので、水道事業の経営戦略と下水道事業の経営戦略を今回新たに改定ということで、2つの経営戦略についてご説明をお願いしたいと思います。

#### ～志賀課長補佐 報告～

齋藤会長 ありがとうございます。経営戦略の要は投資財政計画の策定が一番大事な項目です。今回はその内容が提示されていません。そこに至る考え方については、今ご説明いただいた通りですが、それらを盛り込んで10年間どういう風な収支になるのかということについては、次回11月に定例の審議会を予定しておりますので、その時に改めて説明をしていきたいと思います。今回はそのことを踏まえた上で、ご意見やご質問がございましたらお願いします。

中井委員 今ご説明いただきました、例えば水道でしたら旧簡易水道、下水道においては農業集落排水があり、地理的な条件により非常に戸数の少ないところがあります。特に福知山市の場合多いと思うのですが、その効率が悪いということで、コストが上がってくるということがあろうかと思えます。それが全体的な経営を圧迫しているということになってくると思うのですが、その辺の対策というのは何か考えておられることはありますか。

西村主査 平成29年に簡易水道事業を経営統合した時には、公営企業化し、経営が明らかになることで、収支がすごく悪化しました。その時に水道料金の値上げをさせていただきまして、水道と簡易水道については料金が統一されました。下水についても公共と特環については平成24年度に公営企業化しまして、やはりその時も収支の悪化があり、しばらく赤字が続いておりました。同じく平成29年度に料金改

定をし、公共の方を値上げしたことで、全体的に経営が改善しまして、今回農業集落排水を公営企業化したことで、収支計画を今回は付けていませんが、収支の悪化が見込まれています。対策についてですが、収入を確保するとなった時に、簡易水道の時のように値上げをするかということ、現時点ではまだ理事者との協議もあり、農業集落排水は現在でも他の公共と比べると値段が高く、だからといって維持管理費を削減するというのは難しいため、下水道課とも相談しながら今後の経費についても考えていかなければならないのですが、下豊西部の統合や行積長尾の統合など、できるだけ効率的な運用ができるように努力はしておりますので、今後もできるだけ効率的な経営ができるように上下水道部で努力をしていかなければならないと考えています。

中井委員 今のお話ですと、料金改定をしたから持ち直しているというご説明だったと思うのですが、それ以外に例えば住み方そのものを考えていくとか、いろいろ問題があるのですが、水道に関して言えば、例えばそういう地域において従来どおり管路を入れ替えていくのか、あるいは給水車等によって給水していくというような考え方に変えていくのか、そういうことについてお考えはありますか。

井上次長 水道事業の方から将来的な対策について、現時点で先ほどのビジョンの中でも出てきますが、施設の統廃合によるダウンサイジングや設備的なスペックダウンを、今現在は詳細な計画の策定はできておりませんが、その基となる基本構想を策定途中でございます。まず施設を減らしていくというのがコスト面で大変効果的な方法ではございますが、それにも限度がありますので、先ほど言われました運搬給水も最近よく出てくるワードではございますが、将来的にはそういうことも考えの一つとして必要になってくる時代がくるかもしれませんが、今現在具体的にはそこまで至っておりません。まずは施設をどう効率化していくかということで現在は検討しております。水道としては以上です。

山本次長 下水道課です。下水の25ページの(2)投資財政計画の目標の中に少し書いてありますが、「最適整備構想」「維持管理適正化計画」は農業集落排水事業で行うものです。人口減少も勘案し、現在までは農集を統合したものが今まで2か所、農集を公共にしたところが2か所

と統合を実施してきました。今後は、さらに統合など可能か検討も必要ですが、今回「維持管理適正化計画」が令和5年から3年間かけて農業集落排水の老朽化も考慮し、機能維持が適切にできるかどうか、おっしゃっていただいた人口減少も考えまして、施設そのものが適正かというところを令和5年度、6年度、7年度で適正化計画を進める予定としています。

よって、それも併せてどういう方向で進んでいったら良いか調査検討し、次期のビジョンに繋げていきたいと考えております。

中井委員 分かりました。ありがとうございました。

齋藤会長 難しい問題ですね。インフラを維持できないから住むところを変えてというのは、言うのは簡単ですが、日本においてはかなり難しい問題だろうと思います。それはコロナの時の制限の話でも想像できることですが、経営改革を検討しなければならないと書いてあり、その点も含めて数字を作っていらっしゃると思いますので、次回にご説明をお願いしたいと思います。他にございませんでしょうか。

大路委員 経営戦略ですが、資料4-1に示されているとおり中長期的な経営の基本計画であるため、中長期的な見通し、例えば更新投資の規模や資金残高の見通しなどを基に、改善が必要な場合はその対応方針を決定し、その方針に基づく10年間の投資・財政計画を示していくものと考えます。

例として、資料4-3水11ページの目標に「年間約10億円の投資」とありますが、例えば「中長期的に〇年頃に更新投資のピークを迎えるため、それを平準化するため、毎年約10億円の投資を見込む」といった説明があると、住民の方にも分かりやすいものになると思います。11月に経営戦略を策定予定ということであるため、現時点からの追加は時間的に厳しく、5年後の改定に向けての検討課題となるかも知れませんが、現在お持ちの施設整備計画などから補記が可能であれば対応されてはいかがでしょうか。

齋藤会長 ありがとうございました。これはある程度書かなければならないことが決まっているのですか。自由度がどれくらいあるものなのでしょうか。

大路委員 国は最低限盛り込むべきと考えられる内容をひな形として示しておられます。

齋藤会長 例えば、何もしないところなるよといった資料の作り方があと思うのですが、国から求められている資料はそういうものを含めて構わないのですか。

大路委員 経営戦略としていかに住民に分かりやすく示すかということで、事業者において判断できます。

齋藤会長 最低書かなければならないことだけ決まっていて、後は自由にということでしょうか。

大路委員 はい。最低限盛り込むべきと考えられる内容がひな形で示されています。

齋藤会長 資料4-2の通知の内容だと、少なくともミニマムそれは入れなさいというようなことが書かれているので、それをどのように反映するのかというお話で、ミニマムが示されているだけで、それ以上に示すことについてはやぶさかではないという理解で良いでしょうか。

大路委員 そのとおりです。

齋藤会長 ご意見をいただきましたので、よろしく申し上げます。時間が過ぎており、また引き続き審議案件がありますので、ご質問等ありましたら次回お話していただくということで、本日用意しております5番目の事項について進めたいと思います。

上下水道事業におけるPR活動についてということで、福知山市の水道事業は令和5年度で90周年を迎えることとなります。近年PR活動にも注力しておりますので、年3回発行しております上下水道だよりについて事務局の方から報告をお願いします。

～山田課長補佐 報告～

齋藤会長 委員の皆様から何かあればお願いします。この表紙はインパクトがあったと思うのですが、どなたが決められたのですか。広報には見

えない表紙だなと思って。

山田課長補佐 PR企画委員の皆で決めました。

齋藤会長 何だろうと思いました。他によろしいでしょうか。ありがとうございました。本日用意しております議題は以上となります。閉会にあたりまして、越後副会長より一言ご挨拶をいただきたいと思えます。

越後副会長 皆さん長時間に渡ってお疲れ様でした。経営戦略の方はまだまだ課題があつて数字が見えてこなかったのが議論しづらい面もあったかと思いますが、ビジョンの方は折り返し地点ということで、私が良かったなと思うのは、BやCがけっこうあり、正直に数値目標を設定して、それが達成できなかったというところ、もう少し頑張らないといけないところが分かったということがすごく良くて、今日もお話にありましたが、これをやるとか検討するというのは、全部Aにするのは簡単なことなのですが、そうしないで非常に正直にまとめられていて、もっと頑張らないといけないところも分かったし、できるかできないか分からないギリギリの課題設定をして一生懸命取り組まれているということが分かって、それを今日委員の方やこれから市民の方と共有できるので、とても好感もてる誠実な中間評価だったのかなというのが今日の感想です。今日は大変お疲れ様でした。

齋藤会長 どうもありがとうございました。次回の案内ですが、11月の開催を予定しています。その時には今回の経営戦略の続きと令和4年度の決算についての議論になります。これで令和5年度第2回経営審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。